

# ひらつか安心ファイルの改訂について

(平成30年8月現在)

## 1. 現在までの経緯

### (1) 作成の経緯

平成24年度、湘南真田クリニックが厚生労働省モデル事業「在宅医療連携拠点事業」の委託事業所となる。補助金を活用し、医療介護連携の一環として医師会、歯科医師会、薬剤師会等の関係機関と協議のうえ、4,000冊のひらつか安心ファイルを作成。

平成26年1月より、三師会、地域包括支援センター、介護保険の居宅介護支援事業所・訪問看護事業所・小規模多機能型居宅介護で配布を開始。

### (2) 配付状況

- ・利用者への配布数：1,717冊（平成29年12月時点）
- ・配布機関には年1回の調査時に、配布数と合わせて追加希望数を確認し、渡している
- ・事業者の在庫数：約2,100冊
- ・市の現在の保管残数：約150冊

## 2. 改訂の目的

関係機関に毎年実施している配布状況調査等では、ファイル部分は関係書類の整理として活用されているが、連携ノートは「記載欄が小さく記入しづらい」「項目欄が多く、重要ポイントがわかりにくい」「大学ノートで連絡ノートの役割は足りている」との意見が聞かれた。また、十分な活用が図れておらず、活用方法が関係者間で十分共有されていないことも課題として把握された。

これまではファイル残数が多く、罫紙の追加配布など部分的な改善策にとどまっていたが、市の保管残数が少なくなったため、今年度は様式や配布対象者、活用方法など全体の見直しを行うこととした。

## 3. 改訂に向けた検討状況と今後の予定（案）

- (1) 5月16日（木）在宅医療・介護連携支援センター運営定例会
  - ・改訂の目的及び変更様式の見本をもとに変更箇所を報告
  - ・出席者より今後の方針案（様式の変更、配布中止、現状の様式で活用方法のみの見直し）について検討を行った結果、様式を変更し、現行のファイルの中身を差し替える方針とした
- (2) 6月28日（木）在宅医療・介護連携支援センター運営定例会
  - ・変更様式、運用方法を検討
  - ・試行的な運用にあたり、実施期間及び方法、協力機関への対応について協議
- (3) 7月19日（木）在宅医療・介護連携支援センター運営定例会
  - ・試行的な運用に向けて、詳細な実施方法等を検討
- (4) 8月2日（木）第1回在宅医療介護連携推進協議会
  - ・改訂案及び今後の作業予定を報告
  - ・病院への入退院時や救急搬送時の活用方法について意見を聴取
- (5) 8月～9月：試行的な運用の実施
  - ・高山医師、小宮山医師、上野医師の協力を得て、各チーム内で実施
  - ・医師、ケアマネジャー、訪問看護師、訪問介護職員など関係者から意見を聴取

- (6) 10月上旬：集約した意見をもとに様式類を変更
  - ・市と高山医師、小宮山医師、上野医師との間で調整
- (7) 10月18日（木）：在宅医療・介護連携支援センター運営定例会後、変更内容について関係機関と協議
  - ・市、医師会、歯科医師会、薬剤師会、システム会議の居宅介護支援、訪問看護、訪問介護連絡会に出席を依頼し、様式や運用方法について検討
- (8) 10月末：上記会議で出た修正案をもとに確定版を作成
  - ・市で最終案を作成後、(7)の会議に参加していただいた関係者に報告
- (9) 11月：第2回在宅医療介護連携推進協議会
  - ・ファイルの完成、今後運用を開始していくことを報告
  - ・修正意見があった場合は、可能な範囲で対応
- (10) 12月：事業所等が保管しているファイルを回収し、差替え
  - ・市から事業所等に通知を送付し、事業所に保管されているファイルを回収し差し替える
  - ・改訂版の安心ファイルの運用開始にあたり、システム会議の連絡会の会議等に出席を依頼し、変更内容や活用方法について説明

以 上